

報 雜

人

大湊要港部部員兼分隊長海軍軍醫少佐 大 岩 博 雅
 横須賀鎮守府附被仰付
 海軍軍醫大尉 木 村 芳 雄
 補五十鈴軍醫長兼分隊長
 (三月十七日)
 臺灣總督府臺北醫學專門學校教授 杉 山 九 一
 東京府及長崎縣へ出張ヲ命ス
 (三月七日)
 下志津陸軍飛行學校附兼同校教官同校研究部部員陸軍一等軍醫 菅 田 瀧
 昭和六年徵兵事務執行中第二師團附兼勤被仰付
 (三月十九日)
 京城帝國大學助手 野 崎 美 稔
 任朝鮮道立醫院醫官
 敘高等官六等
 (三月二十四日)
 吳海軍病院部員兼教官海軍軍醫少佐 長 谷 川 靜 一
 免兼職兼補吳鎮守府出仕
 (三月二十日)
 三 谷 登
 栗 林 太 郎
 藤 原 東 一 郎
 藤 間 靜
 橋 本 亨
 上 野 勝 太 郎
 田 中 敬 三
 (各通)
 任陸軍三等軍醫
 (三月三十一日)
 臺灣總督府臺北醫學專門學校教授 横 川 定
 勅任官ヲ以テ待遇セラル
 臺灣總督府醫院醫官兼臺灣總督府臺北醫學專門學校教授 花 室 憲 章
 陸敘高等官五等
 (三月三十一日)
 賜一等給 陸軍一等軍醫 清 水 伸
 (三月三十一日)

事

工兵第一大隊附兼東京陸軍兵器支廠廠員陸軍一等軍醫 佐 藤 一 衛
 遼陽衛戍病院附陸軍二等軍醫 古 田 壽 次
 工兵第十大隊附陸軍二等軍醫 三 木 良 定
 岡山醫科大學研究科入學被仰付
 旅順軍砲兵大隊附陸軍一等軍醫 丹 原 曉 夫
 兼補旅順要塞司令部附
 (四月一日)
 岡山醫科大學教授 生 沼 曹 六
 歐米各國へ出張ヲ命ス
 (三月三十一日)
 岡山醫科大學教授正六位 皆 見 省 吾
 任九州帝國大學教授
 敘高等官四等
 九州帝國大學教授 皆 見 省 吾
 本俸六級俸下賜
 醫學部勤務ヲ命ス
 皮膚科學，泌尿器科學第二講座擔任ヲ命ス
 (四月六日)
 正四位勳三等 島 藺 順 次 郎
 敘勳二等授瑞寶章
 (四月十一日)
 臺灣總督府臺北醫學專門學校教授 横 川 定
 東京，京都，大阪，岡山ノ各府縣へ出張ヲ命ス
 (三月二十六日)
 衛生技師 喜 多 島 健 磨
 陞シテ高等官五等ヲ以テ待遇セラル
 (四月二十日)
 臺灣總督府臺北醫學專門學校教授 横 川 定
 補臺灣總督府臺北醫學專門學校生徒主事

○皆見省吾君 別項の如く九州帝國大學教授に任ぜられたる同君は本月十五日當地出發赴任せられたり
○村上憲佑君 は豫て岡山醫科大學藥物學教室に於て研究中なりしが其業績も結了せしを以て本年二月再び渡米し當分の内左記に寓居せらる

c/o Mr. Y. Inouye
228. S. Monroe St.
Stockton Calif.
U. S. A.

○岩永勘一君 は豫て岡山醫科大學耳鼻咽喉科教室に勤務し居られしが今般兵庫縣赤穂郡有年村松岡病院に轉勤せられたり

○石川適君 は今般神戸市鐘淵紡織會社醫局を辭し神戸市細田町恩賜財團濟生會林田診療所に勤務せられたり

○滋野井至孝君 は今般山口縣三田尻弘中病院外科部長を辭し神戸市下山手通五丁目神戸船員病竝熱帶病研究所附屬攝津病院に勤務せられたり

○新藤輝雄君 豫て岡山醫科大學泉外科教室に於て研究中の同君は今般前項の滋野井君の後任として山口縣防府町三田尻弘中病院外科部長として就任せられたり

○吉田稻太郎君 は豫て岡山醫科大學法醫學教室に於て研究中なりしが今般和歌山市本町生馬醫院に勤務せられたり

○後藤義貞君 は豫て日本赤十字社長野支部諏訪病院より岡山醫科大學に留學を命ぜられ居りしが今般留學満期に付歸院せられたり

○早川政俊君 は豫て樺太眞岡小林病院に勤務し居られしが今般同院を辭し樺太本斗港大通四丁目に於て開業せられたり

○岡崎卓一君 は大正六年岡山醫學專門學校を卒業以來當市石本醫院に勤務し居られしが今般同院を辭し當市三番町に於て開業せられたり

○大塚診三君 は今般愛媛縣吉田町吉田病院を辭し岡山縣小田郡笠岡町に於て開業せられたり

○脇田政之助君 は今般縣立鹿兒島病院を辭し鹿兒島市高麗町に於て開業せられたり

○田中政治君 豫て岡山醫科大學耳鼻咽喉科教室に於て研究中の同君は今般同教室を辭し廣島市猿樂町に於て開業せられたり

○西山昇君 は今般神戸市二宮町二丁目に於て開業せられたり

○大道直一君 は豫て岡山醫科大學皮膚科泌尿器科教室に勤務し居られしが今般其職を辭し大阪市南區日本橋三丁目に於て開業せられたり

○桑原邦司君 は豫て岡山醫科大學稻田内科教室に勤務し居られしが今般辭職廣島縣賀茂郡竹原町に於て開業せられたり

○友廣利親君 は今般山口縣防府町弘中病院を辭し山口縣熊毛郡室積町に於て開業せられたり

○木村敏太君 は今般岡山縣兒島郡琴浦町に於て開業せられたり

○杉本信義君 豫て岡山醫科大學に於て研究中の同君は今般同學を辭し岡山市西田町麻植醫院に於て診療に従事せられたり

◎學位授與 左記諸君は豫て論文を岡山醫科大學に提出し學位を請求し居られしか教授會を通過し醫學博士の學位を授與せられたり其主論文及び參考論文は左の如し

辻鹿子治君 本年2月2日の教授會を通過し3月18日學位授與

主 論 文

膽汁酸血糖降下作用機轉ニ就キテ (昭和5年9月外字生化學雜誌第12卷第2號に發表せり)

參考論文

1. 「ミオクロームスエビレブシー」ニ就キテ (本誌第42年第11號に發表せり)
2. 肝脂肪新陳代謝ニ及ボス膽汁酸ノ影響 (昭和5年12月岡山醫科大學歐文業府第2卷第2號に發表せり)
3. 「バルキンソニスムス」症例補遺 (昭和5年2月本誌第42年第2號に發表せり)
4. 膽汁酸脂肪分解酵素促進作用及 溶血作用補遺 (上代皓三, 辻鹿子治共著) (昭和5年4月外字生化學雜誌第11卷第3號にて發表せり)
5. 鱈及ビ「メカジキ」ノ膽汁酸ニ就キテ (昭和5年4月岡山醫科大學歐文業府第1卷第4號に發表せり)

岡村竹次君 本年2月2日の教授會を通過し3月28日學位授與

主 論 文

蝦蟇膽汁中ノ「ブフォデブオキシコール」酸ニ就テ

第1回報告 (昭和3年1月外字生化學雜誌第8卷第2號に發表せり)

第2回報告 (同年10月同誌第10卷第1號に發表せり)

第3回報告 (昭和4年7月同誌第11卷第1號に發表せり)

參考論文

1. 腸肝ニ於ケル「ヌクレアーゼ」作用ニ及ボス膽汁酸ノ影響 第1回報告 (昭和3年1月外字生化學雜誌第8卷第2號に發表せり)
2. 同 第2回報告 (昭和5年11月岡山醫科大學歐文業府第2卷第2號に發表せり)
3. 鮎, 鯉, 鰻及ビ穴子膽汁中ノ膽汁酸ニ就テ (畠山祐一, 岡村竹次共著) (昭和3年7月外字生化學雜誌第9卷第2號に發表せり)

田中政治君 本年2月2日教授會を通過し3月28日學位授與

主 論 文

蝸牛殻導水管ノ官能ニ就テ

其一 蝸牛殻導水管ノ解剖及ビ組織學的研究 (大日本耳鼻咽喉科會々報第36卷第5號にて發表せり)

其二 迷路炎ニ際シテノ蝸牛殻導水管ノ態度 (同上誌第36卷第7號に發表せり)

其三 蝸牛殻導水管内網狀織内皮細胞ノ機能廢滅ト迷路炎 (同上誌に發表の豫定)

參考論文

1. 扁桃腺ト血行傳染 (田中政治, エスデエクロー共著) (アルハイプ、オブ オトラリンゴロ
ンヂー第1巻第5號に發表せり)
2. 上顎竇吸收作用ニ就テ (朝鮮醫學會雜誌第45號に發表せり)
3. 骨形成上顎竇炎竝ニ之ニ現ハル色素ノ本態ニ就テ (滿鮮之醫界第113號に發表せり)
4. 朝鮮ニ於ケル慢性上顎竇炎ノ統計的觀察 (滿鮮之醫界第25號に發表せり)

糟谷彌介君 本年2月2日の教授會を通過し3月28日學位授與

主 論 文

黃疸ト血液凝固作用トノ關係ニ就テ (本誌第42年第8號に發表せり)

參考論文

1. 網狀内被細胞系統ト血液凝固作用トノ關係ニ就テ (本誌第42年第9號に發表せり)
2. 脾臓ノ「コレステリン」代謝機能ニ就テ 第1回報告
脾臓出ノ血清「コレステリン」量ニ及ボス實驗的竝ニ臨牀的觀察 (糟谷彌介, 得能倫二共著)
(本誌第41年第5號に發表せり)
3. 定期性四肢麻痺特ニ其病理解剖的所見ニ就テ (吉田智一, 糟谷彌介共著) (本誌第42年第12
號に發表せり)
4. 腦脊髄液ノ「コレステリン」ニ就テ (昭和4年7月東京醫事新誌第2631號に發表せり)
5. 「レントゲン」線ノ血清「コレステリン」量ニ及ボス影響ニ就テ (本誌第42年第10號に發表
せり)
6. 野球ニヨル上膊骨折ノ1例ニ就テ (本誌第42年第11號に發表せり)

杉本信義君 本年2月16日教授會を通過し4月4日學位授與

主 論 文

免疫反應ヨリ觀タル過敏症豫防機轉ノ攻究

- 第1回報告 能働性過敏症ニ於ケル豫防機轉ノ攻究 (本誌第41年第11號に發表せり)
- 第2回報告 被働性過敏症ニ於ケル豫防機轉ノ攻究 (本誌第42年第9號に發表せり)
- 第3回報告 過敏症豫防劑ノ沈降素結合抑制竝ニ促進機轉ノ攻究 (本誌第42年第10號に發表
せり)

參考論文

1. 「ヘパリン」ニヨル過敏症豫防ニ就テ (本誌第42年第11號に發表せり)
2. 膠質沈澱帶ト免疫反應結合帶ノ比較 (昭和5年12月岡山醫科大學歐文業府第2巻第2號に發
表せり)
3. 「チウレチン」過血糖ニ關スル實驗的研究 (本誌第39年第5號に發表せり)
4. カウフマン氏心臟機能検査法ニ就テ (昭和2年8月内外治療第2年第7, 8號に發表せり)

關藤忠雄君 本年2月16日の教授會を通過し4月4日學位授與

主 論 文

「カルシウム」新陳代謝ニ及ボス膽汁酸ノ影響

其1 尿中鹽類排泄ニ及ボス膽汁酸ノ影響 (昭和4年10月外字生化學雜誌第11卷第2號に發表せり)

其2 「カルシウム」新陳代謝ニ及ボス膽汁酸ノ影響 (昭和5年1月外字生化學雜誌第11卷第3號に發表せり)

其3 「カルシウム」新陳代謝ニ及ボス膽汁酸ノ影響 (昭和5年4月外字生化學雜誌第12卷第1號に發表せり)

參 考 論 文

1. 家兎膽汁中ノ「グリコヒヨレイン」酸ニ就キテ (昭和6年3月獨逸生化學雜誌に發表の豫定)
2. 「フロリチン」糖尿ニ及ボス膽汁酸ノ影響 (昭和4年5月岡山醫科大學歐文業府第1卷第2號に發表せり)

怡土良三君 本年3月2日教授會を通過し4月14日學位授與

主 論 文

1. 空氣遮斷ノ下ニ於ケル生體死後ノ變化ノ化學的研究 第1回報告 (昭和5年8月岡山醫科大學歐文業府第2卷第1號に發表せり)
2. 空氣遮斷ノ下ニ於ケル生體死後ノ變化ノ化學的研究 第2回報告 腐敗菌及ビ亞砒酸ノ影響ニ就テ (昭和5年12月岡山醫科大學歐文業府第2卷第2號に發表せり)

參 考 論 文

1. 「アントラセン」及ビ其ノ誘導體内服後ノ尿變化ニ就テ (本誌第42年第4號に發表せり)
2. 實驗的二口蟲病家兎尿中ノ硫酸並ニ抱合「グルリロン」酸ニ就テ (本誌第42年第7號に發表せり)
3. 糖定量法ニ就テ (本誌第42年第12號に發表せり)
4. 腐敗ノ化學的研究 第1回報告 夏期ニ於ケル實驗 (本誌第43年第1號に發表せり)
5. 鶏卵孵化ノ經過ニ於ケル卵内容中ノ「プロリン」及ビ「オキシプロリン」ノ態度ニ就テ (追て本誌に發表の豫定)

新藤輝雄君 本年3月2日教授會を通過し4月14日學位授與

主 論 文

「ビリルビン」腸管循環ニ關スル實驗的研究 (追て本誌に發表の豫定)

參 考 論 文

- 其1 肝機能判定ニ對スル血清及ビ十二指腸膽汁「ビリルビン」ノ意義ニ就テ (本誌第42年第8號に發表せり)

- 其2 諸種肝臟疾患ニ於ケル十二指腸膽汁膽汁酸ト「ビリルビン」反應トノ關係 本誌第43年第3號に發表せり)
- 其3 肝臟膽汁採取法ノ一新術式ニ就テ (榊原亨, 内田了, 新藤輝雄共著) (東京醫事新誌第2678號に發表せり)
- 其4 副腎移植ヲ併用セシアデソン氏病ノ治驗例 (榊原亨, 新藤輝雄共著) (昭和5年12月東京醫事新誌第2703號に發表せり)
- 其5 興味アル腎臟水腫ノ1例 (本誌第43年第4號に發表せり)

◎神戸通信 十日會 十日會四月例會を本月10日午後8時より神戸市榮町一丁目第一樓に開く。南京料理の粹を味はいつゝ春陽の一夜を快談す。來會者は、(順序不定)。

山本 覺 圓	畠 山 拓 一	清 岡 直	江 口 博	安 東 寛
伊 藤 英 雄	藤 田 境 太	馬 詰 征 平	横 山 三 郎	星 島 卓 爾
山 本 陸 治	富 山 四 郎	松 島 朗	中 村 松 男	石 川 適
水 野 善 一	安 永 謙 逸	朝 倉 長 三	勝 呂 學	宮 原 正 康
足高 万太郎	人見楠右衛門	太 田 厲 司	山 中 豊 二	林 孝 彦
渡 邊 一 清	水 田 泰 了	井 上 覺 永	清 水 勝 男	永 島 良 之 輔
小 池 輝	高 橋 彌 宗 一	正 木 忠 生	寺 本 重 樹	佐 野 實
石 田 幾 馬	内 田 綱 太 郎	◎赤 岩 亨 二	◎香川弘毅(舊姓太田)	◎西 山 昇
戸 田 亨	渡 邊 傳 二			

◎印は新入會會員

(戸田, 渡邊)

◎第43年第3號吉田稻太郎君論文中正誤

頁	行	誤	正
566	11	Fonroy	Fourroy
ク	17	Löwü	Löwi
ク	下ヨリ5	人類猿	類人猿
567	2	Willstätter'slösung	Willstätterslösung
ク	16	發育セルルヲ	發育セルヲ
ク	20	spaltbatum	spalthultum

尚ホ第1表乃至第5表中 水素「イオン」濃度トアルハ

全部 P_H ノ誤ニツキ訂正。